植樹式2016



時の蘇生・柿の木プロジェクト



3月19日	ビアブレシア公園 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	I
3月20日	晴嵐館 書道美術館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
4月2日	サン・ジャコモ・デッラ・セニョーテ小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4月9日	パデルノ・フランチャコルタ小学校近くの公園 •••••• イタリア・ブレシア県・カステニヤート市	4
4月9日	ガエターノ・ネグリ障碍者支援協会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
4月9日	カスティリオーネ・オローナ中学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
4月29日	ニッコロ・トンマゼーオ総合学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
4月29日	フェルゲイラス市立図書館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
9月17日	ウブントゥ公園 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	アッツァーノ・メッラ総合学校 イタリア・ブレシア県・アッツァーノ・メッラ市	0

ビアブレシア公園

イタリア

ロ ブレシア県・ロデンゴサイアーノ市

学 2016年3月19日

3月 19日に、市民によって管理されている 5000 平方メートルの広さの公園に柿の木が植樹されました。この公園には、エディブル・ランドスケープ(食べられる景観:果樹や野菜が植えられている)があり、多くの植物や樹木が植えられています。



植樹式は、リヨンと姉妹都市に なった記念に植樹され、リヨン からもたくさんの中学 2 年生が 参加してくれました。みんな三 を行い、柿の木は三りを の木製の低い柵によりまわりよれ、近くに立派なプレート も設置されました。さらに、4 月6日には平和会議も開催され ました。





晴嵐館 書道美術館

● 日本

♀ 愛知県・江南市

2016年3月20日





3月20日に、愛知県江南市にて植樹式が行われ ました。

植樹場所は公益財団法人晴嵐館の敷地内にある 小さなガーデンです。(晴嵐館とは日本を代表す る書家 大池晴嵐の作品を保存・展示、また書道 教育を行う教育施設です。

当日は書道教室に通う子どもたちを中心に約40 人の方々が参加してくださいました。また、愛 知県のゆるキャラ「ブンぞー」も駆けつけてく れました!

平和を願って書いた「字」を展示する「平和の 柿アート」展も同時に開催され、954点もの作品 が集まったそうです。

サン・ジャコモ・デッラ・セニョーテ小学校

イタリア

マントヴァ県・サン・ジャコモ・デッラ・セニョーテ市

全 2016年4月2日

2017年 再植樹





パテルノ・フランチャコルタ 小学校近くの公園

イタリア

プレシア県・カステニヤート市

2016年4月9日

4月9日に、イタリア・BS・カステニャートのパデルノ・フランチャコルタ小学校のアブラーミ・マリレーナ先生から申し込みがあり植樹式がおこなわれました。この小学校では、数年前より、平和に関するプロジェクトを開始し、たくさんの企画を進めてきています。子どもたちに、戦争は人々の成長や発展のためにならないという信念を持ってもらうために、この植樹の取り組みを通じ、プロジェクトを進めてきました。

当初の予定では、校庭に植樹するとのことでしたが、実際の植樹は、小学校近くの公園で行われました。4月9日の植樹式には、子どもたち、子どもちの両親、地元のの団体からも多くの参加してくれました。近くの大きな木を利用し、ダンボールで平和の約束などの飾りつけを行い、音楽や歌でお祝いしました。植樹された柿の木からは既に小さな芽がでていました。





ガエター/・ネグリ障碍者支援協会

イタリア

ミラノ県・ミラノ市

学 2016年4月9日

4月9日、イタリア・ミラノのガエターノ・ネグリ障碍者支援協会で植樹式が行われました。

こちらは、障害を持つ人々を支援する目的で 1961 年に設立されました。設立以来、社会と障碍者たちに、かれらもまた価値ある人間であり、他者と等しい権利を有するという認識を高めること、障碍者の生産能力にかかわらず、精神的価値と倫理的存在であることを基盤にした関係構築のための作品と実例制作を支援することを目的に活動を続けています。

柿の木プロジェクトのことは、昨年出版された「柿の木の物語」(イタリア語翻訳版) で知り大きく触発されたとのこと。先生方は、柿の木プロジェクトを通して、施設 内の子どもたちと、施設外の子どもたちの出会いの機会になることを期待しました。

植樹申し込は、ティッツィアーナ・ヴォルタさんを通して行われましたが、彼女が自身の結婚式の翌日に開催した会でこの団体の方と知りあい、柿の木プロジェクトの話しを聞き、柿の木の本のことを知ったことが今回の植樹につながったそうです。植樹式では、未成年の子どもたちを中心に、柿の木をモチーフにした陶器などの作品がたくさん制作されました。





カスティリオーネ・オローナ中学校

イタリア

ヴァレーゼ県・カスティリオーネ・オローナ市

学 2016年4月9日

植樹は、ヴァーレーゼ県のオローナ市より申し込みがありました。 Fuji 会のロサリオ・マニセラ氏を通して、柿の木プロジェクトを 知ったそうです。

植樹式は、4月9日にオローナ中学校で開催されました。いくつかの学校からの子どもたち、市長をはじめ、多くの市民も参加してくれました。日比野克彦デザインの柿の木ふろしきが紹介され、植樹された柿の木のまわりには、子どもたちが絵を描いた少し大きな石が並べられました。また、中学校校内には子どもたちによる絵や作品が展示され、多くの人が鑑賞していました。地元の新聞にも大きく取り上げられました。







ニッコロ・トンマゼーオ総合学校

イタリア

トリノ県・トリノ市

学 2016年4月29日





植樹申し込は、トリノ市からありました。

植樹式は、4月29日にニッコロ・トンマゼーオ総合学校で行われました。子ども たちは授業の中で「被爆柿の木」について学んできたそうです。

少し大きな石には子どもたちのメッセージが描かれています。こられの石は、植 樹された柿の木のまわりに配置されました。植樹式では子どもたちによる歌、日 本の歌の合唱、俳句の朗読などが行われました。

また、3月20日に植樹式を開催した晴嵐館(愛知県江南市)で展示された子ども たちの作品の何点かををイタリアの子どもたちの絵と一緒に展示してくれました。





フェルゲイラス市立図書館







(1)

ポルトガル



リクサ



2016年4月29日



HEARTS という刺繍会社から植樹申し込みがありました。

HEARTSの製品は、クオリティを重視しており、刺繍はすべて8人の職人による手作業で行い、製品を作っています。ファスナー箇所も、通常なら皮革を使用するところは、すべてコルクの素材を使用しするというようなこだわりです。 HE A RTSには、「The Child Artist」というブランドは、子どもたちのアート作品を元にハンドメイドの女性用ファクセサリーを作っており、子どもたけいるそうです。以前よりこのプロジェクトは設とのコラボレーションを行い、その施設に売り上げの一部を寄付してきています。

柿の木プロジェクトのことはネットで見つけた そうです。コラボレーション商品を作らないか との話があり、2015 年夏にビッグサイトで展示 会の時にポルトガルから来日した CEO の Tiago Viera さんと担当者の Patricia Costa さんの二 人と直接お逢いし、話しをすることができました。 その後、「The Child Artist」柿の木プロジェクトは、植樹式とワークショツプに参加してくれた子どもたちの柿の木の絵の中から、3枚が選ばれTwill(スカーフ)が完成。WEB上で販売しています。

The Child Artist:

http://www.thechildartist.com/ja

売り上げの一部は、柿の木プロジェクトの事務 局にフィードバックされることになっています。

今回、一番大変だったのは、柿の木の輸送でした。 スムーズにポルトガルの空港までは到着できた のですが、その後、多額の関税をかけられたり、 大切な植物検疫証明書を紛失されたり、HERTS の 担当者は、山のような書類を準備しなければな らなかったようです。もちろん、日本の柿の木 事務局からもさまざまな書類をお送りしました。 それでも2月3日に日本から送った柿の木は、3 月24日に無事にポルトガルに到着しました。ま た、輸送に「ヶ月半もかかったにもかかわらず、 柿の木は元気でした。

植樹式は、1ヶ月遅れとなりましたが、4月29日にフェルゲイラス市立図書館の庭で行われました。最初に図書館の中で、柿の木の話を聞いた子どもたちは、柿の実をつくり、紙に描いた大きな柿の木に貼っていくワークショップを行いました。そして、図書館の庭で「被爆柿の木2世」を植樹することができました。最後まであきらめないで、税関とのやりとりを続けてくれたHEATSの皆様に心から感謝します。

ウブントゥ公園

イタリア

コモ県・ルラーテ・カッチーヴィオ市

2016年9月17日

(二) 2017年 再植樹

DOMENICA 18 SETTEMBRE 2016

Olgiate e Bassa Comasca 43

L'albero della pace Il prefetto ai giovani «Siete stati bravi»

Lurate Caccivio. Bruno Corda ha partecipato alla piantumazione di un kaki arrivato da Nagasaki «Siete un esempio di rispetto del bene pubblico»

«Bravi ragazzi, avete dato un bell'esempio di rispetto e valorizzazione delle cose pub-bliche». Così il prefetto **Bruno** Corda, intervenendo ieri pomeriggio alla manifestazione "110 note per una vita", si è complimentato con i giovani dell'as-sociazione Parco Ubuntu che hanno strappato dal degrado l'area comunale di duemila metri quadrati ai piedi di villa Pini per riqualificarla e restituirla al-la collettività.

Da Nakasaky Nella parte del Parco Ubuntu più esposta al sole, ieri è stato piantumato un kaki di Nagasaki, figlio dell'albero sopravvissuto alla bomba atomica. Cerimonia abbinata al maxi-concerto di duecento musicanti dei Corpi musicali di Lurate Caccivio, Brugherio, Meda e Triuggio, per

i 110 anni della banda cittadina. «Siamo qui per la bellezza della musica e per il fatto che tanti giovani abbiano contribui-to a sistemare un'area che era deteriorata - ha sottolineato il prefetto – Questo vuol dire ave-re rispetto dei luoghi in cui si vive, metterci tempo, coraggio e voglia per rispettarli e valoriz-

Un sincero ringraziamento ai ragazzi anche dal sindaco, Anna Gargano, perché: «Hanno lavoratoperfarsichenell'arcodi un anno si realizzasse questo bellissimo parco a disposizione della collettività e significativo per tutti i simboli che contiene. Abbiamo lavorato come amministrazione affinché si realiz-zasse questo sogno». Rivolgendosi alla banda, Gar-

gano ha rimarcato: «È un'istituzione che ci invidiano ovunque si presenti. Ringrazio la banda per il lustro che dà alla nostra cit-tadina. La banda di Lurate Caccivio, in cui suonano giovani e meno giovani e intere famiglie, ha realizzato il sogno di unire i giovani alle nuove e vecchie ge-

nerazioni». Anche il nuovo parroco, don Angelo Fontana, si è compli-mentato con i ragazzi che hanno dato forma al Parco Ubuntu. «Questo parco non è solo un punto di ritrovo, ma all'interno ci saranno aree tematiche che potranno fornire spunti di ri-flessione. Darà la possibilità di

imparare qualcosa in modo di-verso, senza i vecchi libri di scuola - ha sostenuto Riccardo Molaro, uno degli artefici dell'area verde-Lagente, mentre sarà qui a grigliare e parlare insieme, po-trà ritrovare il senso di apparte-nenza al nostro paese».

Il nome è ispirato alla frase di Nelson Mandela "Io sono ciò che sono per merito di ciò che siamo tutti": «Questo parco non è frutto del lavoro di un singolo, ma di tutti insieme. Non è il nostro parco, ma tutta la comunità è parte di quest'area verde». Simboli di fratellanza e pace

l'ulivo, donato dall'amministra-zione ai ragazzi del Parco Ubun-tu, e il kaki di Nagasaki. «Questo è il figlio della pianta che ha resi-stito a 300 metri dall'epicentro della bomba atomica – ha ricor-dato Francesco Foletti, referente italiano del progetto "Kaki tree project" - è l'esempio della resistenza. Ringrazio questi ragazzi perché stanno dando un segnale agli adulti di quello che vuol dire mettersi a disposizione per una cosa nuova». Manuela Clerici





Un momento della cerimonia



Il colpo di vanga del prefetto





アッツァーノ・メッラ総合学校

イタリア

♪ ブレシア県・アッツァーノ・メッラ市

2016年

2017年3月25日 再植樹





